

観測部月報

★

東亞天文協會

★ 流星課だより (92)

六月は概して流星の少い月であるが本年はキンネケ彗星の歸來がある爲之に随伴する流星が相當出現するものと豫想せられる。前回は著しい出現はなかつたのであるが、1933年のジャコビ＝流星雨の如き突發現象もあるのだから油断はならぬ。輻射點は單一でなく牧夫座の北部、大熊座、龍座にもある。出現期間は六月中旬から七月上旬に亘つてゐるが極大は六月末と見られる。この他上旬に錫座、中旬にヘルクレス座から放射する流星群が豫想される。

× × × × ×

四月の琴座群は極大の中心に5～6日間は悪天つゞきで観測は全く出来なかつた。残念であるがやむを得ない。新課員二君を紹介する。

長野縣諏訪郡長地村東堀 石 原 昭

東京市神田區東神田一番地 小 石 久 太 郎

× × × × ×

日本天文學會要報(第六卷第一冊)によれば長野縣の田中靜氏が昨年中に4個の流星寫眞の撮影に成功されてゐる。氏の使用されてゐる器械はエルノスタ I F 2.9 のものとダルメヤ I F 2.9 のもので、レンズの前に廻轉シャッターを裝置し流星速度の測定に成功されてゐる。4個の中2個は肉眼観測があり光度はともに0.5等である。廣島縣の吉井氏と呼應して今後一層の活躍を祈るものである。

★ 太 陽 課 (1939年4月)

報告者 13名(前月と同じ)

課員異動 野村秋馬氏、已むを得ざる事情に依り、観測を中止された。捲土重来を期待して居る。明星商業の織田太郎氏に代つて岡村一郎氏、東京市立一中の御供印孝氏に代つて片山八郎氏が新たに報告される事になつた。共に今後の

觀測に期待する。猶ほ島崎光治氏は來阪、一時中止される事になつたが、程なく再開始される筈。

天候 例に依つて、不良の方であり、各個人別には、觀測日數 20 日を超える者のなかつたのは不成績であつた。全員で補つても 2 日、30 日が缺けた。(阿部氏觀測あるも不充分なる旨記載) 猶ほ本邊に依る觀測可能日は 21 日であつた。

概況 前月可成り平靜に歸した太陽面は、俄然活動を盛り返した。各人共觀測日數が不足であるが、先づ二倍弱、80% 位の増加らしく、本年に入つての最高は勿論、昨年 7、8 月の活況以來の高値を示した。前月の急降、本月の急昇と愈々興味は増して来る。此上は觀測日數の増加に依る正確度の向上に心掛けて欲しい。

肉眼的黒點	坂上	津留	正村	すばる會	計
觀測日數	20	10	11	8	49
出現日數	12	7	5	1	25
黒點群數	9	6	5	2	9?
黒點群累計數	35	12	8	2	57

肉眼的黒點も激増した。觀測日數と出現日數の比は 0.51 であつて、前月よりは稍増加した程度であるが、黒點群數が多く、特に下旬は太陽面上に數個の肉眼的黒點群が出現した様である。猶ほ報告者は今後各群に符號又は番號を付し其れを赤で記入する様にして欲しい。たゞ何個とか、符號を附けずに報告されたのでは、前日と同群か別群かの判定が出来ず、従つて全員で認められた黒點群數の推定が出来なくなる故、御願ひして置く。

南北半球の比較	津留	木邊	島崎	杳掛	阿部	すばる會
南	37.6	64.4	31.0	54.4	50.8	64
北	46.6	67.5	45.2	77.1	54.5	50

觀測日數の不足の爲めか、各人の差が甚だしいが、とにかく平均すれば、南 1.00 に對する北 1.13、即ち北 53%、南 47% であつて、前月とは逆に、再び北が多くなつた様である。

各個の群中、特異なものは、杳掛氏の測定に依れば、14 日東半球に出現した小群が殆んど赤道線上にあつた以外なく、高緯度のもので 30° を越した群はなかつた様である。

其他 例月通り全黒點群の緯度を杳掛氏より報告された。

太陽 黒點相對數報告 (1939年4月)

觀測者(觀測地)	坂上 務(鹿兒島市山下町)	津留 繁雄(熊本市本莊町)	野村 秋馬(和歌山市南田邊)	岡村 一郎(大阪市明星商業)	木邊 成廣(滋賀縣中里村)	正村 一忠(岐阜市溝旗町)	島崎 光治(石川縣大聖寺町)	大石 辰次(靜岡縣吉永村)	杵掛 七二(長野縣青木村)	すげ る會(横濱市)	片山 八郎(東京市立一中)	阿部 正明(東京市池袋)	千葉 武志(岩手縣水澤町)
口徑 mm	102	32	60	76	75	25	75	55	102	50	50	32	50
倍率	67	50	62	54	60	48	64	64	75	50	32	45	50
1	14:	曇	0	13	缺	24	37	25	31	30	缺	28	36
2	旅	"	雨	曇	雨	雨	雨	曇	曇		雨	曇	曇
3	"	"	28	"	119	38	45	"	"		"	"	96
4	126	"	缺	"	缺	41	46	"	"		"	"	100
5	118	"	83	"	102	曇	44	72	"		雪	雪	101
6	117	42	缺	"	66	"	53	51	雪	100	雨	雨	曇
7	125	雨	曇	"	曇	"	曇	曇	曇		缺	曇	93
8	139	"	"	缺	98	"	88	76	雨		缺	曇	87
9	132	56	"	"	缺	83	104	曇	102	101	55	55	117
10	136	曇	"	"	107	86	83	83	130	118	94	94	112
11	133	"	102	138	122	95	89	103	124	91	100	曇	129
12	125	63	雨	雨	146	曇	84	曇	120	116	62	曇	125
13	119	曇	病	111	缺	"	雨	曇	曇		雨	曇	雨
14	曇	"	"	132	103	"	曇	104	曇		80	曇	107
15	雨	"	"	曇	142	"	"	曇	曇		29	106	114
16	"	"	"	"	曇	"	119	"	144		缺	曇	缺
17	曇	"	77	104	120	86	145	"	161		曇	曇	曇
18	127	"	96	83	142	84	85	115	153		65	107	121
19	102	"	曇	缺	缺	曇	"	曇	103		60	79	92
20	雨	"	"	"	曇	"	以	曇	曇		缺	102	122
21	"	雨	"	"	雨	雨	下一	雨	"		雨	曇	120
22	125	曇	"	"	雨	曇	時	曇	雨		曇	"	雨
23	188	115	126	"	"	"	中	117	曇		曇	"	曇
24	157	117	"	163	146	114	止	135	缺		曇	"	曇
25	曇	曇	以下	雨	缺	曇	"	121	曇	169	"	153	145
26	176	"	休	雨	雨	"	"	97	缺	192	"	143	曇
27	168	113	休	163	186	"	"	142	曇		雨	121	曇
28	167	曇	休	缺	175	111	曇	158	曇		98	146	160
29	155	"	雨	215	204	曇	曇	146	曇		缺	165	病
30	曇	"	"	缺	"	"	"	曇	"		缺	68:	"
觀測日數	20	6	7	9	15	10	13	14	12	8	9	16	17
一日平均	132	84:	—	125:	132	76	76	99	131	115:	82:	105	112
前月平均	58	70	44	—	72	38	44	64	75	80	—	67	66

註: 阿部氏30日は條件悪く, 平均相對值算出に當つては除外せり。

御願ひ。折角の報告をば、單に毎月表にして出して居るだけでも、つまらないので、先づ手始めに昨年度の觀測日數、黑點群、黑點數、相對數平均、白斑等をば各人で計算して報告され度く思ひます。課の方でやれば宜しいが、到底小生一人では餘暇が無く出來兼ねますから、若し、篤志者があれば申出て下さい。(木邊)

★ 變 光 星 課

1939年3月の報告者と目測數

氏 名	沓 掛 七 二	西 川 英 男	小 澤 喜 一	三 宅 和 夫	清 水 直 次	木 邊 成 磨	合 計
觀測 星數	6	1	28	2	3	38	40
目 測 數	11	2	153	4	12	288	470

内譯 第二部

沓 掛	小 澤	木 邊	合 計
6	28	30	37
11	153	255	419

天候不良の爲めか、甚だ不成績であつた。

第 一 部

η Gem $3.4 \pm$ (三宅 2), X Mon $8.4 \sim 8.0$ (清水 4), $8.2 \sim 7.9$ (木邊 4),
U Ori $7.3 \sim 8.0$ 減少中 (清水 5), $8.8 \sim 9.3$ 減少中 (木邊 6), 兩者の不一致は
口徑の差?, R Tri $11.1 \sim 11.3$ 減少中 (清水 3).

α Ori $1.1 \pm$ (西川 2), 0.9, 0.8 (三宅 2), $0.8 \pm$ (木邊 3).

R CrB 中下旬 $10.0 \sim 9.6$ (木邊 4).

第 二 部

2 Max SU UMa

1 Max Z Cam, X Leo, AY Lyr, CY Lyt, B1 Ori, CN Ori, CZ Ori,
TZ Per, TW Vir (小澤, 木邊).

其他 省略又は Max なし.

(木邊)

★ 遊 星 面 課

★ 6 月 の 火 星 要 素 表 ★

日付	光度	視直徑	虧ケ度	中央經度(ω)	中央緯度(ϕ)	火星日付
6月 4日	-1.2	16''24	0.922	205°35	-12°11	9月43日
6	1.3	16.60	0.925	186.72	12.13	45
8	1.3	16.96	0.929	168.13	12.13	47
10	1.4	17.34	0.932	149.57	12.11	49
12	1.4	17.71	0.936	131.06	12.08	51
14	1.5	18.09	0.940	112.58	12.02	53
16	1.6	18.48	0.944	94.15	11.95	55
18	1.6	18.86	0.948	75.77	11.86	10 2
20	1.7	19.25	0.952	57.43	11.75	4
22	1.8	19.64	0.956	39.14	11.62	6
24	1.8	20.02	0.960	20.90	11.48	8
26	1.9	20.40	0.964	2.70	11.32	10
28	2.0	21.78	0.968	344.55	11.14	11
30	2.0	21.14	0.972	326.44	10.95	13
7 2	2.1	21.50	0.976	308.38	10.74	15
4	2.1	21.85	0.979	290.37	10.52	17
6	2.2	22.18	0.983	292.40	10.29	19

(伊 達)

月 食 寫 眞

去る5月3日から4日にかけての月食は、殆んど全國的の晴れであつた爲に、充分な觀望が出来た。

會員中には、日頃の愛機を通じて寫眞を撮影された方も多かつたと思はれるが、其の出來上りの良否に不拘、觀測部宛、又は編輯部宛6月5日迄に到着する様至急御送付を乞ふ、7月號の口繪は會員の技に成る寫眞を掲載したい。

(編輯室、觀測部)